

折り鶴の願いは，国境を越えて【高学年４ - （８）】

- 平和学習と関連させて -

- （１） 主題名 世界平和のために 【４ - （８）】 関連項目 【１ - （６）】
- （２） ねらい 外国の人々や文化を大切にする心を持ち，日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする意欲を高める。
- （３） 資料名 「折り鶴の願いは，国境を越えて」
- （４） 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	１ 折り鶴を折った時の気持ちを思い出す。	折り鶴を折ったことのある人は，その時どんな気持ちで折りましたか。 ・おばあちゃんが手術をするとき，成功することを祈って折った。	実物の折り鶴を見せ，一羽一羽の鶴にはそれぞれの願いや祈りが込められていることに気付かせる。
展 開	２ 資料「折り鶴の願いは，国境を越えて」を読んで話し合う。 ３ 自分にできることを考える。	祐滋さんが好きで得意なことは何だろう。 ・音楽。歌うこと。 「モンゴルの歌を歌ってくれてありがとう。」と言われ，祐滋さんはどんなことを心の中で考えたでしょう。 ・禎子の歌はモンゴルの歌なのか。ちがうぞ。ありがとうは，ぼくが言わなくてはいけない。 ・日本人として，禎子の DNA を引き継いでいるぼくの使命なんだ。 今日も全国を巡っている祐滋さんたちは，どんな思いで（何を伝えたくて）活動しているのだろう。 ・ぼくが禎子の夢の続きを受け継いで，二度と同じことを繰り返さないよう，一人でもたくさんの人たちに伝えていくぞ。 世界で初めて原子爆弾の落とされたヒロシマに生きる私たちは，世界に伝えなければならないことはないだろうか。そのために自分が今できることを考えてみよう。	自分の得意とすること（好きなこと）で国際平和に貢献できることにつなきたい。 資料の最後『SADAKO』の歌詞につながることに気付かせる。 ワークシートに思いを書いて発表し，他の人の考えを聞き合い深めさせる。 「心のノート」102 ページを開き，書き込ませることもできる。
終 末	４ 教師の説話を聞く。	・先生も先生の立場で，自分にしかできないことを考え，実行していこうとしているのだな。	それぞれが，それぞれの立場や，得意とする分野で，できることから始めていくことの大切さを知らせたい。

折り鶴の願いは、国境を越えて

青く澄み切った空のもと、今年も広島町のフラワーフ
エステイバルが華やかに開催された。ひとつのステージか
ら歌声がきこえてきた。

・・・泣いて泣いて泣き疲れて

怖くて怖くて震えてた

祈り祈り祈り続けて

生きたいと思う毎日でした・・・

四人の若者たち、『ゴッドブレス』の歌だ。マイクを持ち、
空を見上げ、祈るように歌うヴォーカル・佐々木祐滋^{ゆうじ}。彼
にとってこの広島は、特別の地であった。



昭和四十五年、祐滋は福岡県で生まれた。祐滋の父は、あの「原爆の子の像」のモデル
となった佐々木禎子さんの兄である。祐滋は、幼い頃から祖父（禎子の父）や父の活動の
すぐそばにいた。しかし、一度も会ったことのない叔母禎子^{のうらな}のことは、それほど彼にとっ
ては大きな存在ではなかった。

高校時代、仲間とバンドを組んでいた祐滋は、卒業後いったんは就職したが、音楽の道
をあきらめきれず、仕事をやめ東京で音楽活動を本格的に始めた。しかし、やっていくう
ちに自分たちの追い求めているものは何か、自分たちの音楽の柱は何なのかを自問するよ
うになった。

そんなころ、東京で開かれた平和集会に、祐滋たちは招かれた。集会後、参加していた
高校生たちに、

「音楽をやっているのであれば、禎子の歌を歌ってください。禎子のDNA（遺伝子）を
もっているのだから、歌うべきだ。」

と強く訴えられた。祐滋は、はっと目が覚めた。

『ゴッドブレス』誕生の瞬間であった。

「モンゴルに禎子の歌がある。」

今から二十六年前、モンゴルに渡った一人の日本人留学生が、禎子と折り鶴の話をも
へさんというモンゴルの男性に語った。感動したインへさんは、これを詩に書き表した。
そしてその詩に曲がつけられ、禎子の歌はモンゴル全土にあつという間に広がった。題名
は『ツアースン ショボー（折り鶴）』。モンゴルでこの曲を知らない人はいないという。

その話を聞き、祐滋は驚いた。なぜ、モンゴルに禎子が、折り鶴が・・・。

四人は『ツアースン ショボー』の日本語版、『祈り』を作った。しかし祐滋は、いてもたってもいられない思いにかられ、どうしてもモンゴルに行つて自分の目で見て、自分の心で確かめたいと思つた。

平成十四年七月。祐滋はギターを片手にモンゴルに渡つた。作詞者インへさんとの出会い。禎子の話を涙ながらに語るインへさんの横顔をみつめながら、

（今ここに、じいちゃんがいたらどんなに喜ぶだろう。じいちゃんに会わせたい。）と思つた。そしてインへさんたちへの感謝の気持ちでいっぱいになった。

祐滋は勇気を出して、町の広場にギターを抱え、一人で立つた。そして『祈り』の曲をかなで、歌い始めた。すると、ひとり、またひとりと人々が集まつてきた。日本語の祐滋の歌声に、モンゴル語の『ツアースン ショボー』の歌声が重なり始めた。祐滋のギターに合わせ、二つの国の言葉が響き合い、一つの大合唱となったのだ。大人も子どもも、老人も、みんな大きな声でいっしょに歌つた。やがて通じ合つた心は笑顔となり、祐滋を見つめている。

祐滋は震えた。国境を越えた折り鶴の願い。禎子の伝えたかった思い。今、祐滋は全体でそれを感じたのだ。

すると、一人の男性が祐滋のそばにやってきて、

「モンゴルの歌を歌ってくれて、ありがとう。」

と言つた。

（モンゴルの歌？）喜びのなかでその言葉だけが祐滋の心にひつかつた。

「みんな、元氣か。みんなでこの会場を平和でいっぱいにしようぜ！」

今日も、全国の学校を巡つてコンサート活動をする祐滋たち『ゴッドプレス』。そのエネルギーのとは、

「子どもたちの笑顔と、感想の手紙。」

そして、将来の夢は、

「ずっと歌い続けること。禎子の話が伝わっている国々に行つて、伝説ではない禎子の願いを音楽を通して届けたい。」

と、祐滋は語る。

・・・大空に向かい折り鶴をかける少女が

残した夢の続き受けついでゆく

この体にも流れるあなたからの願いを

世界の果てまで届くように歌い続ける ずっと

（『SADAKO』の歌詞より）

活用に生かすための実践報告

「折り鶴の願いは、国境を越えて」

1 主題の設定

世界で初めて原子爆弾が投下された広島では、世界平和を発信する拠点として平和教育に取り組み、恒久平和の実現に思いを寄せている。

道徳の時間に平和学習や教科の学習をリンクさせ、総合単元的な道徳学習を実践することによって、児童に平和を尊重する心情を育成し、世界の中の「ヒロシマ」の役割や、人としての生き方の根本的な価値について考えさせることができる。そこで、平和公園にある『原爆の子の像』のモデル、佐々木禎子さんの甥である佐々木祐滋さんの生き方を資料として提示した。日本人としての立場、また禎子さんの血を受け継ぐ自分の立場をしっかりと自覚し、同じ地球に住む一員として世界に貢献しようとしている彼の生き方を知ることとおして、「ヒロシマ」の子どもたちが自らを振り返り、平和学習の意味や、平和公園の価値等を再認識することができるであろう。そして、自分自身にも祐滋さんと同じようにできることがある、もうすでにやっていることがあることにも気付かせ、自信をもたせてやりたい。

2 指導過程の工夫

導入においては、子どもたちに自分の得意とすることや、好きなことを発表させてもよい。また、「INORI」の曲を聴かせたり、歌詞を掲示し、誰のことを歌った歌だろうと問いかけるのも一つの方法である。

展開では「モンゴルの歌を歌ってくれてありがとう。」と言われたときの祐滋さんの気持ちを考えさせる場面で、「INORI」はモンゴルの歌なのだろうかと思わせかけると、思考がぐっと深まるであろう。

終末で折り紙を配り、自分の思いや願いを書き込ませて鶴を折るのも効果的である。また、平和に関する歌を歌詞の意味を考えながらみんなで歌うのもよい。そして、GOD BREATH や禎子のお兄さん（佐々木祐滋さんのお父さん）をゲストティチャーとして招き、コンサートや禎子さんの話を聞く活動（総合的な学習の時間）につないでいくこともできる。

3 発問の工夫

『モンゴルに行って自分の目で見て、自分の心で確かめたいと思った。』のところで、「何を見、何を確かめたかったのだろう。」「それは、しっかり祐滋さんの目と心でたしかめられたかな。」とさりげなく問いかけておくと、「ありがとう。」と言われたときの気持ちを考える場面で深まった意見が出てくる。

展開の後段の発問では、祐滋さんも私たちも同じであることに気付かせたい。そして、自分にも祐滋さんのように何かできることがないかと問いかけると効果的である。また、思いつかない児童に対しては、平和の歌を全校で思いを込めて歌うことや、一生懸命勉強をしていくことも自分できる素晴らしいことだと伝えてやるとよい。

心のノートに書かせる場合、今だけでなく将来に渡って考え、記入させるとよい。

4 児童の反応（授業後の感想）

【ワークシートより】

・モンゴルの人たちのように親から子へ伝えていきたい。命の大切さを知ってほしい。

【心のノートより】

・千羽鶴を折って、毎年8月6日に平和公園に持っていきたい。人を大切にしていく。命を大切に作る。願いを込めてピースキャンドルを作る。もっと平和について勉強する。総理大臣になって世界の国に平和の大切さを訴える。

5 実践者からの一言

佐々木祐滋さんの生き方に触れた子どもたちは、自分から進んで何かをしようという思いを持つことができたようである。

今年も平和公園内で、心ない行為が起きている。誰もが平和を願い、求めていることを知り、みんなで考えていくことが必要であると感じた。

この資料は、佐々木祐滋さん本人との対話をもとにして作成したものである。

GOD BREATH や禎子さんのことについて詳しく知りたい場合は、ホームページ <http://park3.wakwak.com/~godbreath> を参考にするとよい。

（東浄小学校 川手香苗）